

事業評価シート（平成23年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	ノンステップバス推進事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	'03	③(利便性) 誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	'03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等	公共交通移動円滑化設備整備費補助金交付要綱		
対象・受益者	バス利用者	事業期間	平成20年度 ~
委託、協働	【委託: <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】【協働: <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
誰もがバスに楽に乗り降りでき、平塚駅や周辺の目的地への移動の利便性・安全性が向上し、自立した日常生活を送っています。		バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図るため、ノンステップバスの協調補助制度を導入し、市内を運行するバス車両のバリアフリー化を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	ノンステップバス導入台数			単位	台
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標	5	5	5	6	
	実績	4	5	5		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	ノンステップバス導入率			単位	%
	説明・算定式	平成32年までにバス全体の70%をノンステップバスとした場合の導入率				
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標	6	9	12	16	
	実績	5.5	9	12		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	①: 予定どおり					
	遅れている理由					
平成23年度の主な取組と成果						
国とともに、バス事業者に対しノンステップバス5台の導入を補助しました。						
平成23年度の検証結果	A: 成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	先の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるモビリティ整備を望む声は多く、国の補助制度と連携し、ノンステップバスの導入を促進する必要があります。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがバスに楽に乗り降りでき、バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図り、誰もが快適に暮らせるまちを目指すためには有効な事業です。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	国が定める基本方針では、バス車両に対し平成32年度までに70%をノンステップバスに切り替えることを目標としていることから妥当性があります。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対し、平塚市バス利用促進等総合対策事業補助金交付要綱による補助を行い、効率的な導入を図っています。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 国が定めるバリアフリー新法における基本方針の見直しが行われ、ノンステップバスの導入について平成32年度までにバス車両の70%を導入する目標が示されたことから計画的に進めていく必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成21年度 決算額	平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 予算額
事業内容		ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援	ノンステップバス導入の支援(6台)
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	7,600	6,650	6,380	8,550
事業費 (A)		7,600	6,650	6,380	8,550
執行率 (%)		100.00	87.50	83.95	
内訳	職員 (人)	0.15	0.14	0.24	0.40
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		1,254	1,157	1,945	3,206
フルコスト (A+B)		8,854	7,807	8,325	11,756

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成25年度の取組方針 バリアフリー新法に基づく国の整備目標が示されたことから目標達成に向け導入台数の増加を図る必要があります。
課長コメント 誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるための手段の一つとしてノンステップバスの導入は必要な施策であり、目標達成に向けて継続していくべきものと考えます。 また、国の補助制度及びバリアフリー新法の基本方針が改定されたため、適正な導入を推進する必要があります。